

科目名	人文科学特論			担当教員：李 鎮榮							
科目名(英語)	Advanced Course of Humanity			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	5	研 213	火・金 15：00－17：00						
<p>1. 授業の概要</p> <p>この講義は文化人類学的思考の特色や枠組みを紹介する。大きく人間の営みの人・自然・超自然に分け、各分野における文化人類学の考え方を紹介する。「文化」とは人を取り巻く最も重要な環境であり、人類学的思考の生産性について講義していく。講義に際して講義形式は最小限に留め、受講生による発表と活発な議論を取り入れる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>人間の営みの様々な側面を深く体系的に理解することにより、個人のインスピレーションによるのではなく、科学的な思考が自然とできるようになってもらいたい。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 自己紹介と方針、予備知識のチェック、発表の分担者を決める。  第 2 週 文化人類学と人間の多様性  第 3 週 文化人類学の理論(社会進化論・伝播論)  第 4 週 文化人類学の理論 (機能主義・構造機能主義)  第 5 週 適応と文化 (狩猟採集・遊牧)  第 6 週 適応と文化 (農耕と焼畑)  第 7 週 人間の行為と文化の脈絡  第 8 週 Sex &amp; Gender  第 9 週 言語  第 10 週 言語と記号  第 11 週 言語人類学の広がり  第 12 週 文化を学ぶことと Culture Code  第 13 週 Gender-Role , Socialization  第 14 週 社会化とその後の生活  第 15 週 総括</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】  Nanda, Cultural Anthropology, wadsworth (非専攻者のための概論書)。研究室所蔵  Roger.Keesing, Introduction of Cultural Anthropology (専攻者のための概論書)。図書館所蔵  その他、言語人類学と構造人類学関係の図書については最初の時間に目録を提供する。</p> <p>【参考文献】  一般的な研究書 (課題により適宜紹介する)</p> <p>5. 準備学習  事前に課題を適宜紹介する。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>発表内容と授業への貢献度</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>レポート (発表など)</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件  特になし。</p> <p>8. その他  特になし</p>						発表内容と授業への貢献度	50点	レポート (発表など)	50点	合計	100点
発表内容と授業への貢献度	50点										
レポート (発表など)	50点										
合計	100点										

科目名	政策科学特論			担当教員：高嶺 司	
科目名(英語)	Policy Science			メールアドレス：t.takamine@okinawa-ct.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 503	月：4 限目、火：2 限目
<p>1. 授業の概要</p> <p>本特論は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国（日本、米国、カナダ、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシア、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN、南太平洋島嶼国）の国際関係を政策科学的に考察する。より具体的には、アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係を、政治外交、経済協力、開発援助、地域機構、安全保障、民主化、社会変動、感染症対策といった多角的な視点より分析し、21世紀の地球社会におけるアジア太平洋地域の役割と機能、さらには、その限界を科学する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係とそれに伴う諸課題を、政策科学の視点から考察し理解する能力を養うことを目的とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 はじめにー概念としてのアジア太平洋  第 2 週 アジア太平洋地域の国際関係  第 3 週 アジア太平洋経済協力(APEC)と経済統合  第 4 週 アセアン地域フォーラム(ARF)と安全保障  第 5 週 日本のアジア太平洋外交  第 6 週 中国の政治外交と東アジア共同体構想  第 7 週 ロシアの政治外交と北方領土問題  第 8 週 韓国の政治外交と朝鮮半島問題  第 9 週 北朝鮮の核開発問題と6カ国協議  第10週 台湾の政治外交と中台関係  第11週 オーストラリアの政治外交  第12週 東南アジア諸国連合(ASEAN)と地域主義  第13週 ベトナムとミャンマーの社会構造変動と民主化  第14週 ニュージーランドと太平洋諸島フォーラム(PIF)  第15週 まとめ</p> <p>4. テキスト</p> <p>【テキスト】  特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。</p> <p>【参考文献】  下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力ーその新しい潮流』有斐閣選書 2012年  高橋哲哉・山塚進編『人間の安全保障』東京大学出版会 2010年  大庭三枝著『アジア太平洋地域形成への道程』ミネルヴァ書房 2004年  川口浩・渡辺昭夫編『太平洋国家オーストラリア』東京大学出版会 1988年  J. Baylis, S. Smith and P. Owens (eds.), <i>The Globalization of World Politics</i>, 2008.  S. Smith, A. Hadfield, T. Dunne (eds.), <i>Foreign policy: Theories, Actors, Cases</i>, 2008.</p> <p>5. 準備学習  特になし。</p> <p>6. 成績評価の方法  課題レポート：50点 ディスカッション：50点 合計：100点</p> <p>7. 履修の条件  特になし。</p> <p>8. その他  特になし。</p>					

科目名	社会心理学特論			担当教員：木村 堅一 メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1205	
科目名(英語)	Social Psychology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目

### 1. 授業の概要

本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。社会心理学を学ぶ前提として、1) 科学とは何か、2) 経験とは何か、3) 経験と行動の科学に挑戦する理由とは何か、を理解することで社会心理学を学ぶ理由を明確化し全ての受講生が社会心理学の研究の営みの中に身を置いて考えることを教育目標とする。

### 2. 到達目標

科学全般、特に社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。自らの修士論文における研究計画の立案において、得られた知識を活用できる。

### 3. 授業の計画と内容

第 1 回	コース紹介
第 2 回	科学とは何か (第 1 章 その 1) 認識の方法としての科学
第 3 回	科学とは何か (第 1 章 その 2) 科学的な研究方法、行動と経験の研究とは
第 4 回	科学についての方法 (第 2 章 その 1) 観察、相関、実験
第 5 回	科 についての方法 (第 2 章 その 2) 論理と推論、評価、コミュニケーション
第 6 回	仮説を発展させる (第 3 章 その 1) 論理的に仮説をつくる
第 7 回	仮説を発展させる (第 3 章 その 2) アイディアを得る
第 8 回	数的表現による行動の記述 (第 4 章 その 1) 測定と統計
第 9 回	数的表現による行動の記述 (第 4 章 その 2) 記述統計
第 10 回	推測統計 (第 5 章 その 1) 確率と分布
第 11 回	推測統計 (第 5 章 その 2) 仮説検証、t 検定
第 12 回	仮説を検討する (第 6 章 その 1) 変動の種類
第 13 回	仮説を検討する (第 6 章 その 2) 統計的仮説検証と内的妥当性
第 14 回	統制 (第 7 章 その 1) 無作為化、実験計画での統制
第 15 回	統制 (第 7 章 その 2) 実験の論理での統制、前期のまとめ

### 4. テキスト・参考文献

W. J. レイ (著) 岡田 圭二 (訳) 2013 改訂エンサイクロペディア心理学研究方法論 北大路書房  
高根正昭 1979 創造の方法学 (講談社現代新書 553) 講談社  
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 (編) 2001 心理学研究法入門 東京大学出版会

### 5. 準備学習

指定した範囲について、テキスト・参考文献を通読し、重要な用語については定義を書きだしておくこと。予め指定された担当範囲についてレジメを作成すること。学習内容について、自らの修士論文に関連した具体例を用意しておくこと。

### 6. 成績評価方法

- ・講義への取り組み (50 点) : 講義での発表と資料作成, 質疑応答, 積極的な参加
- ・課題レポートの提出 (50 点) : 1つの章を要約し、授業の中での議論を踏まえ、研究課題を設定、報告。
- ・合計 (100 点)

### 7. 履修の条件

特になし。

### 8. その他

特になし。

科目名	環境科学特論			担当教員：田代 豊	
科目名(英語)	Advanced Environmental Science			メールアドレス：tashiro@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1086	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 207	時間割確定後、研究室に掲示

### 1. 授業の概要

環境科学の重要な部分を占める生物圏に関連した物質循環と人為化学物質の環境影響に関する分野について解説する。授業はテキストと学術文献の講読を中心として進める。

### 2. 到達目標

上述の分野に関する学術的議論に必要な知識と思考力を修得する。

### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 科目の概要の説明と履修要件の確認
- 第 2 週 水生生態系における酸化還元電位
- 第 3 週 制限栄養素と金属の挙動
- 第 4 週 水質と水処理
- 第 5 週 窒素サイクルと食料生産
- 第 6 週 “River loads of suspended solids, nitrogen, phosphorus and herbicides delivered to lagoons”
- 第 7 週 殺虫剤・除草剤の生理作用
- 第 8 週 急性および慢性毒性と発癌性
- 第 9 週 内分泌攪乱作用および PPCPs
- 第 10 週 POPs とダイオキシン類
- 第 11 週 “Global contamination by persistent organochlorines and their ecotoxicological impact on marine mammals”
- 第 12 週 テスト
- 第 13 週 微量有害物質の生物モニタリング
- 第 14 週 “Use of passive samplers in pollution monitoring”
- 第 15 週 総合討論

### 4. テキスト・参考文献

『地球環境の化学』T.G.Spiro, W.M.Stigliani、学会出版センター、5800 円＋税

### 5. 準備学習

教科書の次回授業該当部分を精読しておくこと。

### 6. 成績評価の方法

授業への取り組み	20点
テスト	60点
レポート	20点
合計	100点

### 7. 履修の条件

過去に環境科学に関する学部・大学院の講義を履修したことがあること。また、数学・化学・物理学・地学・生物学等自然科学の基本的な素養は必須である。

### 8. その他

特になし。

科目名	健康科学特論			担当教員：小川 寿美子	
科目名(英語)	Advanced Course of Health Science			メールアドレス：sumiko@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	4	研 608	研究室前に掲示

### 1. 授業の概要

人々の健康を守る人間社会の営みを、医療者や専門家に任せておけばよいという時代はもう終わった。自分のからだ  
と心の主人公はやはり自分であり、よき医療者を得たり、医療者との良い関係を保ったり、保健医療を浴したり、環境  
や社会をより健康的に変えていったりするのも、保健医療の利用者・消費者である一般の人々の責任と行動に負うところ  
が益々大きくなってきている。

本講義では、大学院の共通科目として、単に知識を提供したり開設を加えたりするだけでなく、各章で取り上げている  
問題を受講者が自分の健康問題として考え行動してもらうことを重視する。更に、講義の一部は英語で「健康科学」  
を考える機会を設けることにより、他言語での学びを通じ、大学院の教養レベルの基礎的知識を多角的に習得できるよ  
うにする。

It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.

### 2. 到達目標

本特論を通じて、受講生は、これらの学びの過程をそれぞれポートフォリオ（本科目を学ぶ過程で得た知識、スキル、  
成果の達成過程を示すファイル）にまとめる作業を通じて、体系的な知識の構築手法を学ぶ。

### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 健康とは何か
- 第 2 週 現代社会の心の病
- 第 3 週 ストレスと対処
- 第 4 週 食生活と健康
- 第 5 週 フィットネスとウエイトコントロール
- 第 6 週 タバコとアルコールと薬物
- 第 7 週 愛しあう関係
- 第 8 週 成熟とエイジング
- 第 9 週 死と死にゆくこと
- 第 10 週 慢性疾患と事故とその予防
- 第 11 週 感染症の再興とその予防
- 第 12 週 医療における行動と選択
- 第 13 週 ヘルスケアシステムとマンパワー
- 第 14 週 環境と健康
- 第 15 週 試験

### 4. テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「生き方としての健康科学」山崎喜比古・朝倉隆司 編、有信堂、2011年（第5版）2,800円

#### 【参考文献】

「Life and health care」Yoko Watanabe, Sanshusha, 2002年

「CLIL 英語で学ぶ健康科学-CLIL Health Sciences」笹島茂, 他, 三修社, 2013年

「人々を健康にするための戦略」蛭名玲子, ライフ出版社 2013年

### 5. 準備学習

各週に出される課題、宿題をすること

### 6. 成績評価の方法

授業での活動状況	50点
課題レポート	50点
合計	100点

### 7. 履修の条件

公衆衛生学特論を受講中もしくは受講済みであること。

### 8. その他

同演習を通じて得た分析技法を用い、科学的根拠に基づく修士論文を執筆してほしい。

科目名	学術研究方法特論		担当教員：国際文化研究科長：代表者
科目名(英語)	Academic Research Method		メールアドレス： 研究室電話番号：0980-51-1086
単位数	受講年次	開講学期	登録人数
2	1	前期	平成28年度以降入学者全員（平成28年度以降入学生必修科目）
<p>1. 授業の概要          修士課程における初期段階の研究テーマの設定、参考文献の収集、研究倫理、基本的な研究方法である質的研究方法と量的研究方法、基本的な学術論文作成方法等について学習し、研究デザインを完成させる。</p> <p>2. 到達目標          (1) 問題性があり、焦点化された、学術的に重要性のある研究テーマを設定することができる。          (2) 参考文献の収集方法、文献管理、論文への引用方法について学ぶ。          (3) 質的研究方法と量的研究方法の基礎について学び、自らの研究に活用する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 修士課程の説明、修士研究の意義 (担当：国際文化研究科長)          第2週 研究(学際的視点を含む)とは何か、研究生活 (担当：学長)          第3週 研究テーマと研究の目的 (担当：渡慶次正則 教授)          第4週 参考文献の検索と管理① (担当：図書館長)          第5週 参考文献の検索と管理② (担当：図書館長)          第6週 修士論文の作成方法 (APA, MLA 他) と論文の一般的な形 (担当：研究科長, 演習指導教員)          第7週 量的研究方法 (SPSS の活用方法を含む) (担当：金城亮 教授)          第8週 質問紙の構成 (担当：金城亮 教授)          第9週 質的研究方法① (担当：鈴木啓子 副学長)          第10週 質的研究方法② (担当：小川寿美子 教授)          第11週 ミックスメソッドとサンプリング (無作為法と特定目的法) (担当：渡慶次正則 教授)          第12週 歴史的研究等の方法 (担当：住江淳司 教授)          第13週 研究倫理と剽窃 (担当：大城渡 教授)          第14週 研究デザインのまとめ方 (担当：研究科長, 演習指導教員)          第15週 研究デザインの提出と発表、ピアレビュー (担当：研究科長, 演習指導教員)</p> <p>4. テキスト・参考文献          【テキスト】          適宜紹介          【参考文献】          適宜紹介</p> <p>5. 準備学習          リサーチ・ペーパーと発表は事前に準備をして授業に参加する。</p> <p>6. 成績評価の方法          授業レポート：50点          発表：25点          研究デザイン(テーマ、理由、目的、調査方法)：25点          合計：100点</p> <p>7. 履修の条件          なし</p> <p>8. その他          ・論文作成の書式については、基本的に指導教員の指示に従う(但し、統一した形式を用いる事)          ・各講師の課す授業レポートを提出すること。</p>			